

ダントピックス

北海道立林業試験場

29

刈払い作業の機械化の取り組み

林業の機械化は、伐出作業ではプロセッサなどの導入が進んでいますが、育林作業の機械化は遅れています。植生が豊かな我が国の造林では地拵えと下刈りが不可欠ですが、刈払い用の機械は一部で輸入機械が使われているほかは、広く実用化されたものはありません。林野庁の補助事業で日本の造林地に合った刈払い機械が開発されたので、実際に現地で作業して調査しました。この機械の特徴は、優れた刈払い性能と小型の車体です。緩やかな地形に向きますが、チシマザサや小径木を効率よく処理できるので、地拵えなどに活用が期待されます。

(経営科)

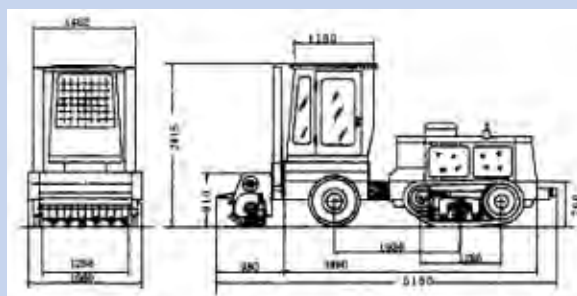


図 - 1 機械の寸法図

車体は全長5150mm、全高2415mm、全幅1660mmで、刈り幅は1266mmです。



写真 - 1 チシマザサの刈払い



写真 - 2 下刈り作業

カラマツ2年生造林地での下刈りでは、苗木を損傷することなく2mの列間を走行して作業できました。

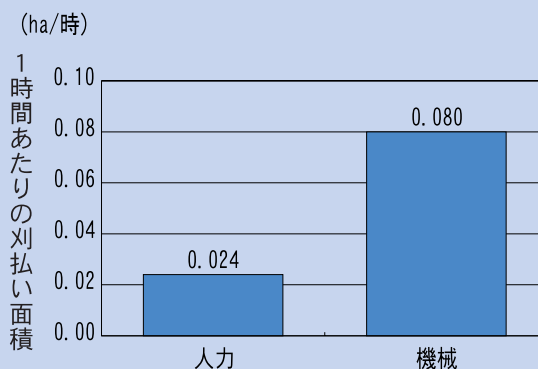


図 - 2 刈払い能率の比較

2m近いチシマザサの刈払いでは、走行条件が良ければ人力作業の3倍以上の生産性をあげました。